

2015年 6月26日 発行：島根民医連 医系学生サポートセンター

〒693-0024 出雲市塩冶神前1-6-2

Tel:0853-21-3360 Email:bunsitu@bronze.ocn.ne.jp

## 6月 おちらとしょ会

# つどい報告 & 山下Dr.のお話し

6月の奨学生会議を6月25日(木)に行いました。参加学生は1年生3名、2年生3名、6年生1名の計7名でした。今回は、先週末に広島で行われた中四つどいの報告と松江生協病院の山下先生から講演をしていただきました。

まず、つどいに参加した学生から2日間のつどいについて写真を使いながら報告をしてもらいました。今回のつどいのテーマは「地域を守る救急医療」。講師の先生から聞いたお話しの内容やそれを受けてのSGDの様子を話してくれました。普段の授業では、一つの問題について友達と議論する場はなかなかないので、とても良い経験になったようです。今回参加していない学生に向けて、来年はぜひ参加しましょう！と呼びかけもしてくれました。学び多い2日間だったことがよく分かる発表でした。

続いて、山下先生から、ご自身の研修の経歴と印象に残っている症例を交えて、患者様に寄り添う医療の大切さを学生に伝えていただきました。「脚気」で受診された患者様の生活背景を知り、貧困からくるビタミン不足が分かった事例や契約社員のため、早く仕事復帰しなければならない患者様にはその要望に合った治療をされた事例など、患者様の状況を見抜くことの大切さを感じた症例をお話しして下さいました。要望に応えるためにも、技術的な面を磨くことはもちろんのこと、誰にでも分け隔てなく質の高い医療を提供することを生業にしている、という先生のお話に、学生も深く共感していました。

その後は、医師と学生で感想交流をしました。学生から山下先生にたくさんの質問がでて時間いっぱい盛り上がりしました。先生から直接、診療や研修についてお話を聞くことができ、学生にとって現場の医療について考えることのできる奨学生会議になりました。



### ◎学生の感想◎

- 生協病院の取り組みについてお話しを聞くことができ、とても勉強になった。実際の現場では患者さんそれぞれに事情があり、生活があるということを忘れてはいけないなと強く思った。医療費などは国の制度であり、医師はそれにしぼられているわけだが、その中でも生協病院はできるだけのことを行っているということでとても感動した。
- 「医療は私的ではなく公的であるべきだ」という考えにはとても共感できた。自分もそういう考えをベースに医療を行っていきたいという思いを強く持った。
- 患者さんを治療するときにその人のおかれている社会的な状況や生活の背景を考慮し、それを含めたうえで治療をすることが大切だと気付いてよかった。治療のためにその人の生活が壊れてしまうようでは良い医療は提供できないのでその人それぞれで治療方針を慎重に立てていくことが重要だと思った。